No.96
April 2023

万里夢

NPO・えん ニュースレター ”まりーむ”

NPOえんは、まちづくり・女性のキャリア実現・市民活動をサポートします。

子育ては「しやすく」なったのか～この15年の変化を考える～

藤原　晴子

この春、長女が高校に入学した。赤ちゃんの頃、会報で育児日記を書いていたのが懐かしい。当時の働く親にとって「保育園に入れる」ことは最初で最難関のミッションであった。この15年で保育施設の拡充、男性の育児休暇取得推進など子育ての課題は政治の大きなテーマとなったが、果たして私たちは本当に「子育てしやすい」社会を実現したのだろうか。

調べてみると、待機児童問題はおおかた目処がついたように扱われている。私が住む大田区では2014年が待機児童のピークだった。世間では2016年2月「保育園落ちた、日本死ね」というネット投稿が話題となり、この頃から「待機児童は働く親だけの問題ではなく社会問題である」という理解が急速に広まった。大田区でも長女が入園した2007年と比べると現在の保育定員は約2倍である。そして現在は待機ゼロが数年間続いている。

費用負担面でもこの間大きく変化した。長女が生まれた頃にスタートした23区における15歳までの医療費助成は、この4月18歳までに引き上がり、先月我が家にもマル青の医療証が届いた。（なお、都内23区外は未実施や所得制限付きなど差異がある。）幼保無償化が始まったのは2019年。一回り年下のママ友は、浮いた保育料で子どもの習い事を一つ追加したそうだ。

制度や費用面のサポートは充実した一方、育児の社会環境には大きな変化がないように感じている。例えば、泣き声をうるさいと言われたり、周囲の視線に耐え切れず、バスや電車を降りざるを得なかったのは私だけではない。児童館や女性支援施設が用意する子育て期の親向けの講座のラインナップは15年前からあまり変化なく、本音を話す場や地域でのゆるいつながり作りをサポートするものが多い。

『縁食論』の中で藤原辰史は、縁（へり／ふち）という言葉を使い「ゆるやかな併存の場」として人々がめぐりあう居場所の貴重さを語っている。子育て支援の現場では、そのような場作りを行政だけでなく、ＮＰＯえんを含む地域団体が長年行ってきた。無償化や増員のような数字では測れない取り組みこそ、実は子育てしやすい社会の実現には不可欠なのではないだろうか。今月子ども家庭庁が創設されたらしい。大人、子ども、すべての人々が生きやすい社会でないと、子育てしやすい社会にはならない。そのようなみんなが安心できる社会の早急な実現を待ち望んでいる。

定期総会開催のお知らせ

NPOえん第24回定期総会を
下記の通り開催します。

■日時：　2023年6月17日（土）
13時～15時
■場所：　多世代交流ひろば「パルひろば辰巳」及びZoomオンライン

目　次

巻頭寄稿 ----------1
多世代交流ひろば 「パルひろば辰巳」報告 ----------2
NPOえん　自主事業報告 /研修実施報告----------2
インタビュー「えんの原点、本間恵さんに聞く」----------3
NPOえんの活動報告・予定 ----------4

多世代交流ひろば事業

パルひろば辰巳の報告

パルひろばでは毎月２回椅子ヨガを開催しています。コロナ禍で外出する機会が減ってしまいましたが、再開後は毎回満員御礼の大盛況。参加する方の外出する機会となり、参加者で同士でおしゃべりしたり、笑い合ったりとあっという間の1時間です。
参加者からは、月に一回の開催を心待ちにしている、毎回来るのが楽しみ、終わった後はとっても気持ちがいい等、嬉しい声が聞こえています。

今後の予定
4月14日（金）
4月18日（火）

５月以降も月2回開催

2022年度パルひろば辰巳の活動を振り返って

昨年度もパルひろば辰巳をご利用いただきありがとうございました。2022年度は、毎回人気の椅子ヨガに加えみつろうラップ講座を開催しました。繰り返し使用できるラップで、楽しみながら環境について意識を高める内容にご好評をいただきました。

パルひろばのフリータイムも徐々に利用者が戻り始め、趣味のおりがみを友人に教える際の利用や、周辺の小学校の保護者が利用するなど以前のように利用する兆しが見えつつあります。
次年度は、コロナ禍で中止していたプログラムをいくつか復活できそうです。

自主事業

えんカレッジ講座開催状況

女性のキャリアと健康づくりを目的にしたえんカレッジの開催状況です。2022年度は、長引くコロナ禍のもと感染対策に気を配りながら、対面とオンラインを組み合わせて実施しました。

ほぐし方＆姿勢改善ストレッチ　オンライン

仕事や家事のすき間時間に気軽に参加できる講座を目指しました。
次年度は対面での開催を検討しています。講師はウォーキングインストラクター　の折居　由加さん
2023年3月1日実施

朗読講座6月開催

好評の朗読講座を以下の日程で開催します。
講師はフリーアナウンサーの橋谷能理子さん
これまでご受講いただいた方もぜひまたご参加ください。
＜日時＞6月20日、7月4日、7月18日（火）
10時30分～12時
＜会場＞東京ボランティア市民活動センター
7月18日のみ多世代交流ひろば「パルひろば辰巳」

オレンジカフェ（認知症カフェ）

認知症のご家族の介護の悩みやご自身の健康についても専門職や地域のお仲間に相談・交流ができます。対面とオンラインのハイブリッドで開催中です。
会場：多世代交流ひろば「パルひろば辰巳」
14：00～15：00　ミニ講座
15：00～　　交流会
毎回テーマを変えてミニ講座をおこなっています。
4/21（金）「音楽で認知症予防」
5/19（金）「季節の養生法」
6/16（金）「季節の養生法」

研修実施報告　≪2023年2月18日（土）≫

『地域の資源を見つけ、活かし、多様な世代がつながるまちづくりを考える』をテーマに研修会を実施しました。
辰巳地区で活動している私たちが、今後この地域でどのようなことができるのか、また、近隣の方々はどのようなことをえんに望んでいるのか等を話し合いました。『人と人の縁（つながり）を結んで、地域の人の円（わ）を広げる、援（おてつだい）をします。』 この私たちのミッションを再確認して、これからも江東区、辰巳地区で近隣の方々、関わってくださる方々が生活しやすい、生きやすい環境をみなさんと一緒に作って行こうという方向性が見えました。

インタビュー　えんの原点、本間恵さんに聞く
～えんの活動と今思うこと～

えんを1998年に設立（1999年に法人化）し、初代代表理事を務めた本間恵さん。地域も世界も大きく変わりゆく今の時代のえんのヒントに、これまでの活動や、今社会に思うことをお聞きしました。

－えんを設立された背景を教えてください。

私は15年ほど生協の活動に関わっていたのですが、その経験がその後の活動のベースになっています。生協は組合員のほとんどが女性。私は仕事をしながら関わっていたのですが生協の方が面白くなり、後に軸足をそちらに移しました。生協の運営は組合員の自主運営が基本。運営参画している組合員は、組織運営のノウハウや企画力がついていくというか、潜在していた力が表に出てきます。次第についていくんです。それでも『まだまだ十分に力を発揮できていないかも…』と思っていました。

女性たちの「もう一つの働ける場」を

1998年にNPO法（特定非営利活動促進法）成立、99年に男女共同参画社会基本法が改正され、2000年に基本計画が策定されました。また2000年に介護保険制度ができました。そんな社会背景と生協活動の経験から、生協と連携した新しい機能ができないかと思ったのが始まりです。NPO法ができれば市民活動に携わるNPOが次々生まれ、設立や運営について相談する場が必要。では「NPOサポートセンター」を創ろうということになりました。この機能により、市民の運動が活性化して、地域が変わっていくことにつながると思ったんです。

また、当時の女性の立ち位置は「専業主婦かパートタイム労働」が主流でしたが、『女性たちの潜在的な能力を生かして、オルタナティブな労働ができたら…！』と考えました。市民活動・市民事業を地域に拡げていくこと、女性たちの「もう一つの働ける場」を広げていきたい。それが「NPO・えん」立ち上げの動機です。

NPOサポートセンターは生協の組織内機構ではなく委託事業を受けた別組織としてスタートしました。以来、生協は最も心強いパートナーとしての存在になり現在に至っています。

－今、地域や社会にどんなことを感じていますか？

１人１人の市民力が試されるとき

今の政治は市民にとって危うい状況になっていると思います。「新しい戦前」とか言われていますが、戦前にしないためにはどうしたら？といつも考えています。これまで以上に、１人１人が、政治家任せにせず、「市民力」が試されるとき。だけど、その力が弱まっていると感じる一方、若い人の中で新しい形の運動も芽生えていて、これには期待したいです。こんな時代、こんな社会だからこそ、個人を尊重した地域に根差した地道な活動が大切だと思っています。

「中間支援組織」としてのえん

時代が抱えている課題に地域の中で具体的な動きをどう作っていけばいいのだろう。「えん」の役割は元々「中間支援組織」です。直接サービスを提供するのではなく、間に立ってコーディネートすることが原点です。そのためには、地域や多様な人々、多くの市民団体、そして行政とのつながりが必要です。今の時代、中間支援組織として何が必要か。これまでの活動の繰り返しではなく、新しい視点も取り入れながら、他の市民活動の動きも参考にしながら考えた方が良いでしょうね。女性たちが抱える問題も変化しているので、サポートの仕方も変わっていくでしょう。難しい課題ですが、えんのこれからを応援しています。

本間恵さん（写真）
現在は朗読ボランティアに参加し図書館や小学校での読み聞かせ活動、都市・農漁村を結びつけるNPO運営等に携わる日々。ジョギングや体操教室で健康維持し、毎日忙しく過ごしている。

※2023.1.16本間さんご自宅にてインタビュー　聞き手：宮坂久美子

NPOえん第93回理事会報告

「NPOえん第93回理事会」は2023年3月7日（火）、役員5名の出席を得て、NPOえん事務所において10時30分より開催しました。議決事項は以下のとおりです。

①次年度事務局体制について
②ご近所ミニデイサポートの件
③人員募集について

全案承認されて11時30分に閉会しました。

ご挨拶

事務局の宮坂と申します。7ヶ月えん事務局スタッフとしてお世話になりました。このたび家庭の都合で退職することになりましたが、講座企画アシスタントや「万里夢」インタビュー等を通し地域の皆様と関わることができ、新しい発見がありました。ありがとうございました。皆様の益々のご健勝とNPOえんのご発展を心よりお祈りいたします。

（宮坂久美子）

編集だより

コロナ禍での様々な制限が緩和されてきて、ようやく日常が戻りつつあります。やはり人と会って会話をして笑い合う、普段できていたことに制限がかかると、この時間が私たちには必要なのだと改めて実感しました。
今後も地域の皆さん、利用してくださる方の笑顔のために活動をして参ります。皆様からのご意見やご要望をお寄せください。

NPOえんは、こんな支援ができます！

◎女性のためのキャリアサポート
「えんカレッジ事業」を始め女性のキャリア作りのお手伝い。

◎まちづくりサポート
地域の多世代交流ひろばの企画運営、市民活動への提言活動

NPOえん会員募集中

■年会費　個人：1口3,000円（何口でも）
　　団体：1口3,000円（2口以上）

お振込み先：
ゆうちょ銀行　〇一九支店　当座0061621
中央労働金庫　亀戸支店　口座番号　5339909
口座名：特定非営利活動法人エヌピーオーえん

■NPOえん会員状況（2023年4月15日現在）
会員数35名〔正会員数19名/賛助会員26名（内団体2）〕

■ボランティアも募集しております。
詳しくは事務局までお問合せください。

NPO・えんの活動		
1月	4	万里夢第95号発行
	13	椅子ヨガ
	20	オレンジカフェ
	24	椅子ヨガ
2月	3	えんカレッジ講座（プレ更年期）中止
	10	椅子ヨガ
	17	オレンジカフェ
	18	研修
	21	椅子ヨガ
3月	1	えんカレッジ講座（ほぐし方＆姿勢改善ストレッチ）
	7	第93回理事会
	10	椅子ヨガ
	28	椅子ヨガ
	28	コミュニティワーク連絡会学習会参加
活動予定		
4月	14	椅子ヨガ
	15	万里夢第96号発行
	18	椅子ヨガ
	21	オレンジカフェ
5月		椅子ヨガ
		椅子ヨガ
	19	オレンジカフェ
	23	第94 回理事会
6月		椅子ヨガ
	16	オレンジカフェ
	17	第24回定期総会
	20	えんカレッジ（朗読講座）
		椅子ヨガ

編集/発行　特定非営利活動法人　NPOえん
〒135-0053　江東区辰巳1-1-34
Tel&Fax:03-3522-0302
E-mail: info@npo-en.com
ウェブサイト：www.npo-en.com/npo.en.japan
フェイスブック:www.facebook.com/npo.en.japan
ツイッター：https://twitter.com/npo-en

NPOえんのホームページ、Facebook、Twitterはこちらのコードからどうぞ！

人と人との縁を結んで
地域に人の円を広げる
援をします